

令和7年12月定例会 一般質問 野口昌史議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。(各議員からの「質問」(問)に該当する部分を黄色マーキングしております。

「サヌカイト工房跡調査から香芝市の魅力アップへ」

○野口昌史 皆様こんにちは。議長のお許しをいただきましたので、日本維新の会、野口昌史、通告に従い一般質問させていただきます。

今回の質問はサヌカイトという石のお話であります。堅い話はしません。先日の清川議員の話と同様に、香芝愛にあふれたお話、内容になりますので、どうかお付き合いください。

さて、本年の11月から、香芝市内におきまして、サヌカイト工房跡の発掘調査が開始されました。場所は、詳しく言いますと、ちょうど私の本当に家の前になります。奈良に住んでいますと、地面を掘ると何か出てくると言われておりますが、まさかこの家の真前で遺跡発掘調査が行われるなんて、本当に思いもよりませんでした。昨年、試掘段階からこのお話を聞いておりましたので、関心を持って、いろいろと文献などを読んで勉強していると、なかなか興味深いものがありまして、今回の題材として取り上げさせていただきました。

サヌカイトにつきましては、香芝にお住まいの方々には比較のご存じの方が多いと思いますが、旧石器時代から弥生時代にかけて、石器の材料として広く利用された火山岩でございます。二上山は、日本有数のサヌカイトの産地として知られております。そして、今回の調査は、単なる遺跡の確認にとどまらず、古代における石器生産の実態を解明する上で、全国的に注目される、本当に学術的価値の高いものであります。しかも、この調査の意義は学術的価値だけにとどまらないと考えております。この調査を契機としまして、香芝市が持つ日本有数の石器生産拠点としてのポテンシャルを再認識し、そして文化財保護、博物館利用、観光振興、環境保全、そして市民の参加を統合した総合的なまちづくりを構築する。そのことによって、香芝市が唯一無二の魅力を持つまちとして市民の誇りとなり、全国から人が訪れる。そのような未来を切り開くことができるのではないか。そのような観点から、私は本日一般質問させていただきたいと思っております。

サヌカイト工房跡調査を起点とした香芝市の魅力向上と地域ブランディングについて市の見解を伺ってまいりたいと思っております。

最初の質問に入ります。

今回の発掘調査によって明らかになる史跡としての価値について確認するため、まず最初に、基本的な情報として、令和7年11月から始まったサヌカイト工房跡の発掘調査について、その概要と調査に至った経緯をお伺いし、私の壇上からの質問とさせていただきます。よろしく申し上げます。

○教育部長 サヌカイト工房跡の一つであります鶴峯荘第1地点遺跡は、旧大阪樟蔭女子

大学短期大学部南側の丘陵を中心に広がる遺跡で、昭和59年度から60年度までにかけて当時の香芝町教育委員会が発掘調査を実施したところ、旧石器時代の多数のサヌカイト製石器が出土いたしました。この出土品が平成10年度に本市指定文化財に指定され、令和2年度には奈良県指定文化財に指定されることなどにより、本遺跡は西日本を代表する旧石器時代の遺跡として評価されることとなりました。これらのことを踏まえ、鶴峯荘第1地点遺跡の発掘調査は、本市教育委員会、奈良県立橿原考古学研究所及び同志社大学文化遺産情報科学調査研究センターの3機関で令和6年3月に締結した協定書に基づき、本遺跡を含む二上山北麓遺跡群の解明を目的として、令和7年11月から実施しているものでございます。

以上です。

○野口昌史 ありがとうございます。

今お答えいただきましたように、この遺跡は最初の調査が約40年前に行われ、学術的にも貴重な遺跡でございます。文献にあるその当時の写真を見ると、まだ私の自宅が建つ前の造成地が写っており、もしかしたら私の家の下にも何か埋まってるのではないかと想像いたします。

さて、今のお答えの後半で、3つの機関で締結した協定書に基づきと言われましたが、鶴峯荘第1地点遺跡の発掘調査の事業主体はどこなのか。また、その事業費及びその負担はどのようにしているのかについて教えていただけますでしょうか。

○教育部長 鶴峯荘第1地点遺跡の発掘調査は、奈良県立橿原考古学研究所が主体となり、本市教育委員会事務局教育部文化財課と共同で実施している事業でございます。

本事業は、奈良県立橿原考古学研究所が独立行政法人日本学術振興会の科学研究費助成を活用して実施する事業の一部であり、鶴峯荘第1地点遺跡の発掘調査に係る事業費は明らかにされてはございませんが、全て当該助成により実施するものであるため、本市の事業費の負担は発生してございません。

以上です。

○野口昌史 ありがとうございます。費用的には本市の負担はなかったということですね。次に、これまでの調査実績についてお伺いいたします。

二上山北麓地域におきましては、これまでも複数の発掘調査が実施されてきたと承知しております。考古学において、個々の調査は単独で完結するものではなく、過去の調査結果を積み重ね、総合的に分析することにより、より深い歴史像が明らかになるものであるとのことでございます。今回のサヌカイト工房跡調査も過去の調査結果と関連性の中で位置づけられることで、その価値がより明確になると考えます。

そこで、お尋ねいたします。

香芝市のこれまでの二上山北麓における発掘調査の実績について教えてください。

○教育部長 本市における二上山北麓における調査は、昭和59年度から昭和60年度までにかけて実施したもので、本調査により、本市内に旧石器時代の遺跡が多数分布していることが明らかになったほか、鶴峯荘第1地点遺跡等のサヌカイト工房で瀬戸内技法と呼ばれる

石器の製作技法が生み出されたことなど、二上山北麓発祥の旧石器文化について確認されてございます。

以上です。

○野口昌史 ありがとうございます。

この旧石器時代の後半というのは、年代でいいますと、今からざっと約3万年、2万年前のお話でございます。また、今言われましたように、市内に旧石器時代の遺跡が多数分布しているということは、この香芝市におきましても、少なくとも3万年前に人の営みがあったということであり、そう考えると、本市は悠久の歴史を持つ市とも言えるわけでございまして、香芝市の魅力、大きなロマンを感じます。

次に、お尋ねいたします。

二上山北麓遺跡群における鶴峯荘第1地点遺跡の位置づけについては、どのようになると考えられますでしょうか。

○教育部長 鶴峯荘第1地点遺跡は、二上山北麓遺跡群の中でも開発が進んでおらず、旧地形をとどめている唯一の遺跡でございます。これまでの発掘調査でも、旧石器時代の学術的価値の高い多量の石器の製作工程を示す遺物が出土していることから、二上山北麓発祥の旧石器文化を解明する上で重要な場所と考えられます。

以上です。

○野口昌史 ありがとうございます。学術的に価値の高いたくさんの遺物が出土しており、重要な場所であるということですね。

次に、二上山北麓遺跡群の位置づけについてお伺いしたいと思います。

奈良県立橿原考古学研究所の資料によりますと、二上山から寺山にかけて、旧石器時代から弥生時代にかけての遺跡を総称して、二上山北麓遺跡群と呼んでいるとのことでございます。つまり、遺跡が点在しているのではなく、広範囲にわたる遺跡群として、一つの大きな歴史的、文化的まとまりを形成しているということでもあります。この遺跡群という捉え方は非常に重要でございます。なぜなら、単独の遺跡よりも、広域的な遺跡群として総合的に保存、活用することで、その歴史的価値はより高まり、観光資源としてのポテンシャルも大きくなるからでございます。

そこで、お尋ねいたします。

香芝市として、この二上山北麓遺跡群についての重要性をどのように認識されてますでしょうか。

○教育部長 二上山北麓遺跡群は、先ほどご答弁申し上げましたとおり、旧石器時代の学術的価値の高い多量の石器の製作工程を示す遺物が出土していることから、本市としても重要な遺跡として認識してございます。

以上です。

○野口昌史 ありがとうございます。

今回の調査が、遺跡の学術的価値を把握する上で本当に貴重な機会であるということ

ご認識されているということは本当に大変心強く思います。現場でもお聞きしたんですけども、調査できる場所が年々減ってきているということでございます。ぜひ、今後の研究のために、今回の調査場所がそのまま残されるようにと願っております。また、この場所につきまして、今回終了後には埋め戻されると伺いまして、何かよい方策はないのかと切に思うところでございます。

そこで、学術的価値の把握という観点からお伺いいたします。

二上山北麓遺跡群の保護について香芝市教育委員会はどのようにお考えでしょうか。

○**教育部長** 二上山北麓遺跡群につきましては、過去の宅地開発等で消滅しているところもあり、不明な点も多い状況でございます。これまでの発掘調査により、旧石器時代の学術的価値の高い多量の石器の製作工程を示す遺物が出土しているものの、遺跡の史跡指定に当たっては、遺跡の範囲や、その中心となる場所等を含めた全体像を発掘調査によって示す必要がございます。今後、鶴峯荘第1地点遺跡の発掘調査のような学術調査を積み重ね、出土品に加えて、遺跡としても保存に値する学術的価値が明らかになれば、文化庁や奈良県等の関係機関をはじめ、土地所有者とも協議をした上で、保護について検討してまいります。

以上です。

○**野口昌史** ありがとうございます。調査を積み重ねて、保存に値する学術的成果があれば検討していくとのこと、ぜひ前向きにお願いいたしたいと思います。

さて、ここで改めて二上山北麓遺跡の価値について申し上げたいと思います。

二上山北麓遺跡群の最大の特徴は、数万年という長期間にわたって継続的に石器生産が行われてきたという点にあります。旧石器時代に始まり、縄文時代、弥生時代へと時代を超えて人々がこの地を訪れ、サヌカイトを採取し、石器を作り続けてきた、これは日本列島の石器文化の歴史を語る上で極めて重要な意味を持つものでございます。日本有数の石器生産拠点として、全国に誇るべき文化資産を有してるとも言えます。今回、私自身、このような貴重なものが香芝市にあったものだ、改めて認識させられました。

次に、「石の記憶」としての発信戦略についてでございます。

これまでは二上山北麓遺跡群の史跡としての価値を確認してまいりましたが、この価値を市民や全国の方々に伝えるには、やはり学術的な説明だけでは不十分であります。学術的な内容というので、今日は持ってきてませんけども、分厚い本がありまして、なかなか一般の人には分かりにくいものであります。ということで、やはり人々の心に響く物語性、ストーリー性というものが本当に重要であると考えます。正直に言いますと、このテーマを取り上げるまで、私自身、サヌカイトに対して本当にあまり興味なかったんですよ。それが、去年の暮れに家の前でサヌカイトの試掘があり、今年の11月頃から本格的に調査が始まるという、そのようなお話を聞きまして、それに関する文献だとか、二上山博物館にあった、こんな冊子だとか読んでいくうちに、だんだんとやっぱりこの石の魅力に引き込まれていったというか、興味が湧いてきてまして、それに加えて、事前のヒアリングでは二上山博物館の館長が博物館の中の展示物を一つ一つ見ながら熱く語っていただいたり、また現場におき

ましても、橿原考古学研究所の方が実物を見ながら本当に詳しく説明していただいたりで、今やもうサヌカイトにはまっているのではないかっていうぐらいのことで、まさにこのサヌカイトには何かそれだけ人を引きつける物語性を持っているのではないかと考えております。

サヌカイトは、文字が生まれるはるか以前、旧石器時代から弥生時代にかけて人類の生活を支えてきた石であり、当時の人々がこの石を選び、たたき、道具を作り、生活を営んだ、その全ての営みを見てきた存在であります。言い換えると、サヌカイトは「石の記憶」として、文字のなかった時代に人々の生きざまを今に伝える唯一の証言者であると言えます。縄文、弥生の人々はどのような思いでこの石をたたいたのか、またどのような暮らしを営み、どのような願いを抱いていたのか。文字による記憶は残っておりませんが、石は確かにその時代を記憶しています。このような「石の記憶」という観点から二上山北麓遺跡群の価値を発信していくことは、単なる観光PR以上の意味を持つと考えております。それは、香芝市民が自分たちの足元に眠る歴史の深さを知り、そして誇りを持つことにつながると考えております。また、全国の方々に対しても、香芝に行けば、文字以前の人類の記憶に触れられるという唯一無二の価値を提供できると私は考えております。

そこで、お尋ねいたします。

この「石の記憶」を軸とした発信戦略について、市はどのようにお考えになりますでしょうか。

○教育部長 「石の記憶」とは、二上山北麓発祥の旧石器文化そのものであると思料しますが、二上山博物館では、常設展示のテーマとして、「二上山の3つの石、サヌカイト、凝灰岩、金剛砂、よみがえる旧石器時代」を掲げ、二上山北麓遺跡群のサヌカイト製石器を中心に展示してまいりました。また、令和5年度には、二上山博物館をDX化するなどし、その普及啓発を行っているところでございます。

今後も引き続き、二上山博物館を本市の魅力ある遺跡や文化財の情報発信の拠点として位置づけ、二上山北麓発祥の旧石器文化等の普及啓発に取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

○野口昌史 ありがとうございます。

次に、市民参加型の物語創出の継承についてでございます。

「石の記憶」を市民に浸透させ、次世代へ継承していくためには、行政からの一方的な発信だけではなく、市民が自らこの石の物語を発見し、語り継ぐ仕組みが不可欠であります。具体的には、以下のような取組が考えられます。

1つは、子供たちによる創作活動でございます。市内の小・中学生が実際にサヌカイトに触れ、音を聞き、もし自分が縄文時代の子供だったらと想像して、物語や絵、音楽を創作する、このような体験を通じて、歴史が教科書の中の出来事ではなく、自分とつながる物語になります。もう一つは、市民参加型のストーリー収集プロジェクトでございます。私とサヌカイト、あるいは二上山の思い出といったテーマで市民から写真やエッセイを募集し、それ

を展示し、ウェブサイトで共有する、これにより多様な「石の記憶」が重層的に蓄積され、まちの全体の物語として育っていきます。こうした取組は、文化財への理解を深めるだけでなく、香芝市民が自分たちの歴史を語れるまちとして、シビックプライドの醸成にもつながると考えております。また、子供たちが「石の記憶」を通じてふるさとの歴史を学ぶということは、ふるさと教育としても極めて有効でございます。

そこで、お尋ねいたします。

このような市民参加型の「石の記憶」の継承の取組を検討する考えはございませんでしょうか。

○**教育部長** 本市といたしましては、市民参加型の取組として、二上山博物館において、二上山とサヌカイト、凝灰岩及び金剛砂の3つの石の展示テーマに合ったワークショップを開催しております。

また、博学連携教育による二上山博物館の見学や郷土学習の際に実物のサヌカイト石器等に触れるハンズオン手法を取り入れ、子供が実際に二上山の岩石や鉱物を見て、触れて、自ら学ぶ姿勢を養えるように、体験講座の充実を図っております。

今後も引き続き、二上山北麓発祥の旧石器文化等を身近に感じることが出来る取組を企画してまいります。

以上でございます。

○**野口昌史** ありがとうございます。

先ほどの取組の内容は私からの提案でございますので、現在実際に行われてる取組に加えまして、実現可能な形を模索しながら、ぜひ前向きにご検討いただければということでお願いしておきます。

次に、二上山博物館の役割と文化資源の活用についてでございます。

日本有数の石器生産拠点としての価値を発信する上で、中核的な役割を担うのが二上山博物館でございます。この二上山博物館の役割について、香芝市としてどのように位置づけているのか。また、遺跡等の調査の成果をはじめ、文化資源を二上山博物館でどのように市民に還元しているのでしょうか。お教えてください。

○**教育部長** 二上山博物館は、第5次香芝市総合計画及び第3次香芝市生涯学習基本計画において、文化財の保存、継承及び活用の拠点として位置づけられております。

その具体的な役割としましては、継続した文化財の調査研究の推進と調査研究によって得られる成果等を後世に保存し、継承していくとともに、活用の措置を講じることでございますが、その成果等については、地域の歴史や文化財に親しみ、その理解を深めるための質の高い学習環境と学習機会を提供することのほか、展示会や各種講演会等を開催することにより、市民に還元しているところでございます。

以上です。

○**野口昌史** ありがとうございます。

続けて、お伺いいたします。

二上山博物館の最近の利用状況についてお教えいただけますでしょうか。

○**教育部長** 二上山博物館の利用状況でございます。直近3年間では、令和4年度は7,905人、令和5年度は8,277人、令和6年度は8,774人でございます。

以上です。

○**野口昌史** ありがとうございます。

前の答弁の中で述べられた取組や、またDX化など、利用状況は増加傾向にあるようですが、個人的には、この二上山博物館というのはまだまだポテンシャルがあると思っております。さらなる工夫と利用者を増やす取組を引き続きお願いしたいと思えます。

次に、調査成果の保存と展示計画についてでございます。

今回のサヌカイト工房跡調査によって、貴重な出土品や学術的知見が得られることが期待されます。これらの調査結果は、単に記録として残すだけでなく、市民に見える形で還元されることが重要であります。

出土品を実際に目にすることによって、教科書の中の遺跡が自分たちのまちの歴史として実感できるようになり、特に子供たちにとっては、地元で発掘された本物の遺跡に触れるということは、ふるさとへの愛着を育む貴重な機会になると考えます。

そこで、お尋ねいたします。

二上山博物館における遺跡出土品等の文化資源を学校教育にどのように活用しておられますでしょうか。

○**教育部長** 二上山博物館では、市内の小・中学校を対象とした博学連携教育推進事業による施設見学や郷土学習の際に、実物のサヌカイト石器のほか、二上山の岩石や鉱物を活用し、ハンズオン手法を取り入れた体験講座を実施し、これらを通じて郷土の歴史や二上山北麓発祥の旧石器文化等に触れてもらう取組をしております。

以上です。

○**野口昌史** ありがとうございます。

子供たちにぜひこのような機会を提供するっていうことは本当にとっても大切なことだと思います。ぜひ、今後もいろいろと工夫を重ねながら続けていただけるようによろしく願います。

次に、香芝市教育委員会の遺跡全般保護に関する取組についてお聞かせください。

○**教育部長** 本市のこれまでの遺跡の保護に関する実績といたしましては、市内遺跡の中でも尼寺廃寺や平野塚穴山古墳などのとりわけ重要な遺跡につきまして、文化庁や奈良県の指導に基づき、国庫補助金事業による学術調査を進めてきました。国の文化審査会での認定を受けた遺跡につきまして、国史跡に指定して保存を図り、史跡公園として整備事業を実施して、活用を図っております。現在は、民有地に存する狐井稲荷古墳、狐井城山古墳及び土山古墳の3つの古墳について、開発から保護するため、順次、史跡指定に向けた取組を進めているところでございます。

以上です。

○野口昌史 ありがとうございます。

今回の私の質問は、サヌカイト遺跡を中心にやらせていただいておりますが、本市にはほかにもいろいろな遺跡があるということで、本当に香芝市の大きな魅力になり得るものがございますので、ぜひしっかりと保護していただき、遺産として後世に残していただけるようによろしく願いいたします。あわせて、これらの発信のほうもしっかりとよろしく願いしたいと思います。

次に、過去のシンポジウム等の実績についてお伺いします。

文化財の価値を広く発信するためには、展示だけではなく、シンポジウムや講演会といった学びの機会を提供することも非常に重要でございます。コロナ以前には、本市におきましても石器に関するシンポジウムなどが開催されたと聞いております。このような取組は、専門家の知見を市民が直接学べる貴重な機会であります。また、全国の研究者や歴史愛好家に対して、香芝市の文化財の重要性をアピールする絶好の場でございます。

そこで、お伺いいたします。

過去にどのようなシンポジウムが開催され、どのような成果があったのか、その実績についてお聞かせください。

○教育部長 二上山博物館では、主に展覧会や関連するテーマでシンポジウムや講演会等を開催してまいりました。旧石器時代の特別展に関連したシンポジウムとしましては、京都大学霊長類研究所の協力を得て開催した平成8年度特別展「人類の起源とサヌカイト」や、日本で初めて旧石器時代が存在したことが証明された史跡岩宿遺跡を管理する岩宿博物館の協力を得て開催した平成26年度特別展「二上山と岩宿」等、合計4回開催してございます。特別展の期間中には、石器の研究者を講師に招聘したシンポジウム等を開催することで、多くの観覧者が来館し、二上山北麓発祥の旧石器文化等の魅力を全国に発信する好機とすることができました。

以上です。

○野口昌史 ありがとうございます。

続きまして、今後の積極的な取組についてお伺いしたいと思います。

先ほど伺った過去のシンポジウム等は、聞いたお話によりますと、全国からかなりの人々が集まってきたということでありまして、香芝市のブランディングを高める上で非常に有用であったと考えます。しかし、残念ながら、コロナ禍を経て、そうした取組が停滞してしまっているのではないかという懸念もあります。今こそ、このサヌカイト工房跡調査という絶好の機会を生かして、再びシンポジウムや講演会、市民向けのワークショップなど、多様な発信活動を展開するべき時期ではないでしょうか。

では、今後の旧石器文化に関する取組を積極的に進めていく考えはございますか。お伺いいたします。

○教育部長 新型コロナウイルス感染症の流行後は、広域なテーマの催事の企画より、地域の歴史や文化財に特化した催事を行ってまいりました。二上山博物館の催事の企画運営に

当たりましては、今後も、利用者アンケートの調査結果に基づき、二上山北麓発祥の旧石器文化をはじめとしまして、遺跡や文化財等の地域の魅力ある文化資源を活用した展覧会やシンポジウム、講演会等の事業の充実に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○野口昌史 ありがとうございます。

過去にもいろいろと実績を出されておられたということでございますので、繰り返しのなりますが、ぜひ今後も、引き続き積極的な取組をよろしく願いいたします。

次に、観光振興についての展開についてお伺いいたします。

二上山博物館を核とした日本有数の石器生産拠点のブランディングは、文化財保護という観点だけでなく、観光振興という観点からも重要な意味を持つと考えております。近年、歴史文化を軸とした観光、いわゆる文化観光のニーズが高まっております。二上山博物館を訪れた方々が本市のほかの観光地に足を運んでいただければ、本市のさらなる観光振興につながると考えますが、これについて市の見解をお伺いいたします。

○市民環境部次長 ご指摘のとおりだというふうに考えてございます。まずは、二上山博物館のほうにどんづる峯やダイヤモンドトレイル、また本市周辺のドライブマップなどを配架するなどいたしまして、観光地及び観光施策のさらなる周知に努めたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○野口昌史 ありがとうございます。

この二上山博物館は既にDX推進事業を進められているということでしたので、さらにデジタルコンテンツなどを利用してゲーム的要素を持たせる、例えばデジタルコンテンツのスタンプラリーみたいな遊びの要素も取り入れながら、様々な周知の方法をぜひ検討していただきたいと思います。

次に、市民参加型の保全システムについてでございます。

ここまでは文化財としての確立とその活用による香芝市の魅力向上についてお伺いしましたが、しかし、その大前提といたしまして、美しい二上山麓周辺の環境を守ることが必要であると考えます。しかしながら、環境保全や文化財保護は行政だけで実現できるものではなく、地域をよく知り、日々その環境の中で暮らしている地域住民の皆様の協力が不可欠でございます。どんづる峯では住民主体の清掃活動や環境整備を行っている団体があると伺っておりますが、そのような活動を支援する施策として、香芝市ではどのようなことをされているのか、お教えてください。

○市民環境部次長 地域課題または行政課題の解決を目指す市民活動を支援し、市民活動団体の自立及び市民活動の活性化を促進するために、市民活動団体が提案を実施する事業に対しまして補助金を交付する香芝市まちづくり提案活動支援事業を実施しているところでございます。

以上でございます。

○野口昌史 ありがとうございます。

香芝市まちづくり提案活動支援事業により、市民活動団体への補助金を交付されているとのこと。また、市民協働のまちづくりを進める上で、このような支援制度は本当に大変重要であると考えております。これに関しては、今までの議会の答弁の中で何度かご説明があったので、詳しい事業内容についてはお伺いしませんが、またできれば市民の皆様に分かりやすい形で周知のほうを引き続きよろしくお願い申し上げます。

それでは、令和7年度の環境保全や文化財保護の活動に対する支援について教えていただけますでしょうか。

○市民環境部次長 環境保全の活動に対する支援といたしましては、どんづるぼうの森という団体にいたしまして、どんづる峯の森におきましての清掃活動などの保全ですとか、樹木に対する樹名板の取り付け、案内冊子の作成、そのほか、観察会やハイキング会の開催などに対しまして支援を行っております。

以上でございます。

○野口昌史 ありがとうございます。

先ほども述べましたとおり、環境保全や文化財保護は行政だけで実現できるものではなく、住民の皆さんの活動が不可欠でございます。そして、それは市民協働のまちづくりにつながるものであり、今後も引き続き、住民活動に対する支援を継続いただき、活動が活性化するようによろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、総合的政策についてということで提案させていただきます。

これまでサヌカイト工房跡調査を起点として、史跡としての価値確立、博物館の活用、観光振興への展開、市民参加、そしてどんづる峯を含む一体的整備と環境保全まで、多岐にわたる論点を提起してまいりました。しかし、これは一見異なる政策領域にまたがっているように見えますが、実は全て美しい二上山麓を守り、そして生かし、次世代へ継承するという一つの大きな目標に収れんするものでございます。しかし、現状ではそれぞれの政策領域が所管で分かれており、統合的な政策展開が困難な面があると思います。また、市のほうでは、現在、景観法に基づく景観計画を検討されていると承知しておりますが、景観法は主に建築の外観規制に重点があり、届出、勧告という手続で強制力に限界がございます。さらに、用途そのものに規制は困難であり、文化財保護や環境保全といった多面的な要素を包括的に扱うには不十分でございます。そこで、私は、景観法と保全条例を組み合わせることによって、より実効性の高い保全体制を構築すべきと考えております。景観法が色や形を周辺と調和させるという外観規制にとどまるのに対し、市独自の保全条例であれば、以下のような仕組みを構築できると思います。

第1に、事前協議制度の創設でございます。大規模施設において、計画段階で市長との協議を義務づけることで問題を未然に把握できます。そして、第2に、総合的影響評価の義務づけでございます。文化財、景観、環境、交通への影響を一体的に評価する制度を設け、単なる外見だけでなく、史跡や自然環境への総合的な影響を審査できます。第3に、審議会に

よる専門的審査でございます。専門家や市民代表で構成される審議会の意見を聞く手続を設けることによりまして、客観的で透明性の高い判断が可能になります。第4に、市民参加の保障でございます。周辺住民への説明義務や意見聴取を条例で明確化し、市民が主役のまちづくりを制度として担保いたします。

これらを景観法の規制と組み合わせることで、外観規制、総合的評価、市民参加という多重の防御網が構築され、二上山麓の歴史的環境を実効的に保存できると考えております。もちろん、この条例の制定というのは、法的整合性の検証、市民、事業者との調整、議会での審議など、相応の時間と手続が必要であることは十分承知しております。しかし、今こそサヌカイトの工房跡調査というこの絶好の機会を生かして、二上山麓の価値を再認識し、そして総合的な保全の仕組みを構築するのに絶好の機会ではないでしょうか。少なくとも3万年前から、人々は二上山の美しい景色を見ながら暮らしてきたわけでございます。旧石器時代、縄文時代、弥生時代とずっと時代を経て、美しい二上山を見てこられたということで、我々はやはりそれを次世代にそのまま引き継ぐ義務があると考えております。

以上の理由から、私は、文化財と環境、観光、教育、行政と市民、これらが有機的に連携し、美しい二上山麓を次世代に継承するための法的基盤として、これ仮称でございますが、二上山麓総合保全条例の制定を提案したいと思います。ぜひ、この件について前向きにご検討いただきますよう要望いたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。